空き家利活用シンポジュウム

地域資源としての空き家利活用を考える

ＮＰＯ法人砺波土蔵の会理事長　尾田武雄

特定非営利活動法人（NPO） 砺波土蔵の会

- 土蔵の会とは
- 砺波が大好き！な人が集っている。
- 昭和61年10月に発足。
  砺波を愛し、歴史、民俗、考古学、石仏、地理、動植物、宗教、教育など、
  どんな小さなものにもスポットを当て、
  自ら生涯学習を実践。楽しく学ぶ「楽習」を続けています。
- いわゆる、研究から行動へ。学びから実践へ。提案から行動へ。これがＮＰＯ法人砺波土蔵の会である
- 平成21年11月26日富山県より特定非営利活動法人として認証される。

砺波市まちづくり協働事業計画書
平成21年11月10日

①観光インタープリター（地域文化の通訳者）の養成

成熟した観光ガイドの養成を図る。

②空き家調査の実施

砺波の散居村景観崩壊や安全･安心を脅かす状況に

③民泊調査及び試行

砺波散居村の「ファン」づくりに資する。

世界に誇ろう、砺波平野の散居村

空き家の現状

- 少子高齢化・晩婚化・核家族・若い世代の人交流出・農業の衰退で、農家の跡取りが都会で就職。散居村に住む人の高齢化
- 砺波市（平成23年10月現在の状況）
- 空き家数　２７７軒（未調査地区がある）
  （砺波市全体戸数15.530軒）
- 空き家率1.78％

空き家

空き家

空き家

準空き家

空き家　廃屋状態

空き家　廃屋状態

空き家のもたらす問題

- 散居村の景観の悪化
- 展望台から眺めると虫食い状態である
- 地域の安全・防犯・防災
- 不審火による火災への不安
- 子供などの連れ込みなどの不安
- 野生化した野良犬や猫、ハクビシンやカラスなどの巣となっている
- 不審者の侵入
- 粗大ごみの投棄

刻々と増え続ける空き家

- **砺波市の世帯数** 15.530**軒**

60**歳**～64**歳単身世帯数**	340**軒**
65**歳**～69**歳単身世帯数**	195**軒**
70**歳**～74**歳単身世帯数**	219**軒**
75**歳**～80**歳単身世帯数**	279**軒**
81**歳**～84**歳単身世帯数**	275**軒**
85**歳以上**	315**軒**
60**歳以上単身世帯数**	1.623**軒**
高齢者単身世帯率	10.5**％**

空き家のもたらす近未来

- 散居村景観の保全が難しい
- 獅子舞に象徴される祭りや、自治会活動などのコミュニティーが守れなくなる
- 放棄田が増え農業用水路の維持が困難になる
- 不在地主の増加で、地域コミュニティーや用排水路などの農業インフラの維持が困難になる
- 不在地主は、小作料より高い用水費等の出費
- 着々と「内なる崩壊」が進んでいる
- 地域が維持できなくなる

散居村に住む私たち

- たとえば今私たちの近所に若い人が住んでいるだろうか？
- 今後10年後20年後、どんな生活をしているだろか？（市の3分の1が空き家になるだろう）
- 私たちが高齢者になったら除雪や江浚い、買い物ができるだろうか？
- 空き家の多い集落に住むと、限界集落のようにならないだろうか？

空き家の利活用

- 砺波市の空き家　277軒（10月現在）
- アンケートの回答件数　115件

現状のまま所有	46軒
売却希望	30軒
貸付希望	11軒
取り壊し	17軒
分からない	24軒

空き家バンクの設立

- 空き家の解消と定住促進の「一石二鳥」策
- 県内外からの移住促進
- 定住人口の増加
- 地域に若い人が住むと多くの問題の解決
- ＵＪＩターンの受け入れ
- 地域に新しい風を入れ、新しい風土

- 若者に来てもらうには「魅力ある砺波」でなければならない

地域の魅力再発見と発信

- 散居村・チューリップ・真宗風土などの魅力的なものが多い
- 砺波郷土資料館、砺波散村地域研究所、となみ散居村ミュージアムなど、文化・歴史が蓄積されている
- この住んでいる者にとっては何気ないものが、実は魅力的なのである
- 昨年の３回の民泊事業では「ぜひ住んでみたい」の高い評価を得た。移住したい人もいる

民泊ツアー専念寺本堂前で記念写真

参加者と記念写真

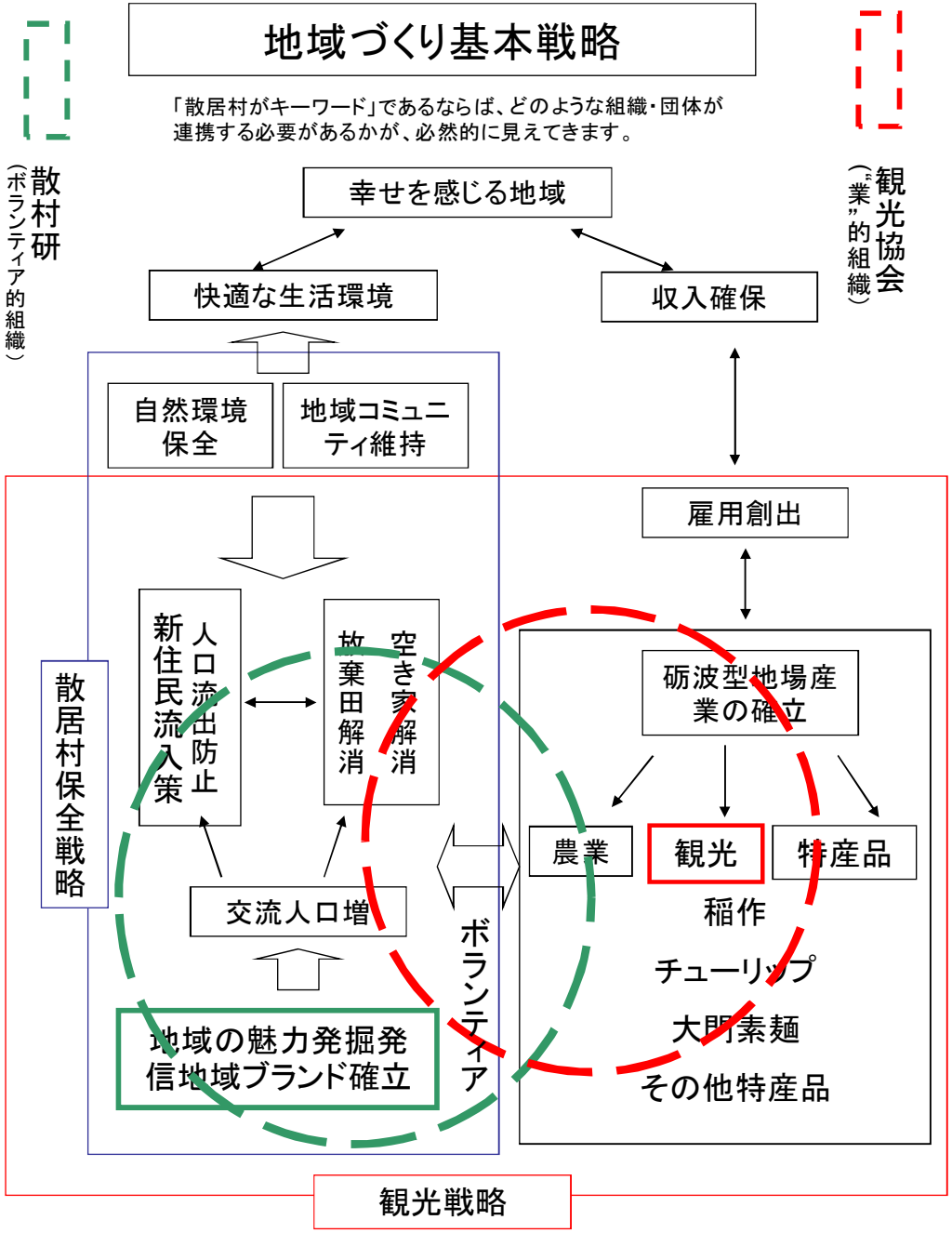
空き家バンクの組織

- 地域を愛し、情熱ある研究者やボランティア団体
- チューリップ生産、大門素麺の作り手の生業の専門性とエネルギー、生産者や商業者
- 公共性と地域の活性化の観点から行政
- この三者が協力して運営

- 砺波型ＮＰＯ団体の設立
- となみ散居村ミュージアムを核として、砺波郷土資料館などを統合し、空き家バンク・観光情報サイトを運営することが方策として考えられる。

地域づくり基本戦略

「散居村がキーワード」であるならば、どのような組織・団体が
連携する必要があるかが、必然的に見えてきます。



総括

- 散居村、チューリップ、歴史文化など「地域の宝」を磨き、その魅力を広く発掘・発信し、交流人口を増やすことで、地域活性化を目指す

（砺波観光振興戦略プラン）

- 地域の魅力発信・空き家利活用事業・民泊事業はセットであるべきである。

- そしてなによりも、空き家情報バンクの開設は喫緊の課題である。

世界に誇ろう、砺波平野の散居村

終